

内子の魅力を発信するコミュニティツーリズム提供のためのゲストハウス 「内子晴れ」の開業

支援機関 伊予銀行 支援内容 創業支援 支援区分 創業

合同会社 アソビ社

事業者概要

社名／合同会社 アソビ社
代表者員／山内 大輔
業種／旅館業、飲食業
所在地／喜多郡内子町内子3025
資本金／1,800,000円
設立／平成29年4月（開業 平成29年11月）
従業員数／5名



古民家ゲストハウス&バー「内子晴れ」建物正面

支援に至る経緯

代表社員 山内大輔氏（以下、「山内氏」という）は「四国八十八か所歩き遍路」で四国を旅したことがきっかけで、総務省事業「地域おこし協力隊」として内子町へ移住した。

内子町へ移り住み、旅とは違う「内子町の暮らし」を体験し、内子町は都市部と比較して利便性では劣るものの、その暮らし方から得られる「心の豊かさ」は魅力のあるコンテンツであり、都市生活者にとっての日常との“ギャップ”自体が貴重な観光資源になりうる大いなる価値だと考えた。山内氏自身の経験から、旅人と同じ目線での楽しみ方を提案し、訪れる人それぞれが「内子町らしさ」を体験できるようなサービスを提供したいと考え、開業に向けて準備を進めていった。

山内氏が考案したプランを磨くために、「いよぎんビジネスプランコンテスト2016」（以下、「ビジネスプランコンテスト」という）に応募され、審査の結果、「南予活性化賞」を受賞した。地域の活性化につながるプランであることから伊予銀行の本支店が一体となり、創業に向けた支援に取り組んだ。

支援内容

山内氏は、『内子を遊びつくす』を合言葉に、楽しむための様々なアイデアをふんだんに用意し、その拠点として、町並み保存地区の古民家を活用した古民家ゲストハウス&バー「内子晴れ」を運営することとした。ビジネスプランコンテストへの応募により事業計画は固まりつつあったが、事業の実現に向けて資金計画等のブラッシュアップ支援を行った。

また、平成29年4月に開催された株式会社いよぎん地域経済研究センター主催「第3回 松山 地域クラウド交流会（以下、「交流会」という）」にて事業プレゼンテーションを行うことを提案し、5名の起業家によるプレゼンテーションのなかから最大得票数を獲得した。交流会の様子はfacebookを活用して情報発信しており、山内氏の事業を開業準備段階から広く周知することができた。

支援の効果

ビジネスプランコンテストや交流会などの参加を通して、事業計画をブラッシュアップし、第三者にも魅力のあるプランに仕上がったことで、事業への「自信」が付き、また、山内氏の事業を広く周知することができた。

そして、公益財団法人えひめ産業振興財団の「地域密着型ビジネス創出助成事業」へ応募・採択された。助成金等を活用することで資金負担を最小限にした取り組みが可能となった。また、愛媛県信用保証協会と連携してスムーズな資金調達に向けた支援を行った。

平成29年11月、町並み保存地区内に古民家ゲストハウス&バー「内子晴れ」をオープン。

今後の展開

山内氏に加え、一級建築家、グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナーなどの専門分野に優れたスタッフとともに「街づくりのブランディング」を自治体や各種団体と連携しながら取り組んでいくことを考えている。地域住民と旅行者をつなぐために、町内若手事業者や、専門技術に優れた職人と協業することで「人と人のネットワーク」や「ものづくり」、内子ならではの地域性・生活文化を活かしたサービスを展開していくことを目指している。11月より料理チーム『寿喜多』との協業により、内子ならではの「食」の提供も開始している。

「内子らしさ」を広くPRすることで、内子町を若者が集う魅力的な町となるよう取り組んでいく。

事業者の声

ゲストハウス&バーをすることで、旅行者と地元のお客さんの交流が生まれました。事業を立ち上げるのはとても大変なことでしたが、準備から開業に至るまで、お世話になりました。人が集う場所をつくることだけが目的ではなく、そこで繋がった人たちとも、建築、デザインなどのアソビ社の力を活かしながら事業展開をしていきたいので、引き続きご支援、ご指導よろしくお願い致します。



代表社員 山内 大輔

支援者の声

山内氏は人を引きつける魅力あふれる方です。

「内子晴れ」が「人と人がつながり面白い取り組みが生まれる地域の核となる場所」になることを祈っております。伊予銀行もグループ一体で事業加速化に向けたお手伝いをしていきます。

担当者 岡山 亮輔